

[ 横浜市民ギャラリー ]  
平成24年度業務報告及び収支決算  
[ 公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 ]

- ※ 文中の事業欄において、  
●：主催事業。○：共催事業  
を示します。
- ※ 文中の達成指標、達成状況欄において、  
□：定量的指標。■：定性的指標  
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市民ギャラリー
所在地	横浜市中区万代町1-1
構造・規模	教育文化センター（鉄骨・鉄筋コンクリート造、地下2階・地上11階）のうち地下1階、地上1階、2階、3階部分
敷地・延床面積	専有延べ床面積2,918㎡
開館日	昭和39年3月

2 指定管理者

法人名	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区北仲通四丁目40番地
代表者	理事長 澄川喜一
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成23年4月1日から平成28年3月31日まで

3 指定管理に係る業務総括

指定管理第2期の2年目としての充実を図りつつ、関内市民ギャラリーで運営する最後の一年としての活動は、約半世紀の運営の長きに亘って築いたネットワークでつながる様々な関係を確認し整理した年でもありました。

ニューアート展のテーマである“映像”を事業全般に亘って取り上げ、横浜市こどもの美術展、芸術文化プラットフォーム事業においても、映像の表現メディアとしての面白さ・多様性を作家によるワークショップ等を通して子ども達にもわかりやすく語り伝えました。

コレクション管理においては、仮収蔵庫への移転に備え、購入だけでなく様々な経緯で形成されていったコレクションの、データ上と現物との齟齬など未整備だった点を全て洗い出し・整理して移転できたことは、次年度以降の新ギャラリーへ向けてのコレクション整備においても大いなる果実となりました。また、横浜美術館と連携して所蔵作家の一人にスポットをあてての間取り調査や、ローマ国立近代美術館への所蔵品の貸出は、地元作家の調査・研究という極めて重要な学芸業務の成果であり今後の研究においても励みとなり参考となるものです。

運営面においては、閉館・移転という大事業のもと、様々な分野における歴史を遡っての整備が必要となり、施設としても組織としても整理の一年でした。他方で、横浜市および教育委員会との協力連携が必須で、協働で作業

の節約や効率化を図り、遅滞遺漏なく閉館・移転を実施し、横浜市への施設引き渡しを果たしました。

1年半ほどの休館に対し、利用団体や一般市民から期待感の一方で不安視する声もありましたが、一連の作業を無事終えることができたのは多くの組織・方々の理解・協力・支援があつて成せることと深謝し、ここで築いた有形無形の財産を新ギャラリーへの運営に生かしていきたいと願うところです。

#### 4 業務の取組と達成指標

##### (1) 事業について

##### ア 発信性のある自主事業の実施について

[業務内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
<p>①「ニューアート展 NEXT」の開催</p> <p>●現代美術界をリードした「今日の作家展」(1964-2005)、同時代の美術をわかりやすく紹介した「ニューアート展」(2006-2010)の系譜を受け継ぎつつ、第2期の基本テーマ「創造都市横浜からの発信」を明確に捉え「ニューアート展 NEXT」にふさわしいアーティストを選出します。</p> <p>●開館以来初の映像展の開催</p> <p>映像が美術の一手法として確固たる地位を築いて久しく、日本における写真発祥の地である横浜、今後の成長が見込まれる映像産業、といった潮流をとらえ、当ギャラリーとして初めて映像を主体とした展覧会を開催します。</p> <p>●横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野等との連携</p> <p>両施設とも写真・映像</p>	<p>①「ニューアート展 NEXT」の開催</p> <p>□入場予定者数:3,500名</p> <p>□開催時期(予定):9月28日～10月17日(20日間)</p> <p>□協賛金と助成金の目標獲得額:1,000,000円</p> <p>■アンケート:回収率4%、市民満足度4.0以上</p> <p>■ボランティアの参加:前年度に引き続き、作家の制作段階での参加の仕組みを作るなど活動内容の工夫を図ります。</p> <p>■関連事業:展覧会期間中のアーティストトークや他事業でも“映像”を取り上げ、企画展の盛り上げを図ると同時に映像への理解・興味を深めます。</p> <p>■近隣施設との連携:財団が運営する施設はもろん、東京藝術大学大学院映像学科、県民ホールギャラリーや映像に強いギャラリー・店舗との広報をはじめとした連</p>	<p>①「ニューアート展 NEXT2012</p> <p>動く絵、描かれる時間 Phantasmagoria」の開催</p> <p>横浜を拠点に活動する2組の若手映像作家を取り上げ、新しく古い映像の表現メディアとしての多様性を打ち出しました。</p> <p>横浜市の都市政策に関連し頭角を現してきた横浜出身の兄弟ユニットの SHIMURAbros.と、神戸出身で油画から映像に転身しインタラクティブな表現を目指す金澤麻由子の2組で、当館初の映像展。</p> <p>初公開となる新作映像インスタレーションをはじめ、アニメーション原画、映画のなかの時間の経過を立体に仕立てた作品、絵本の挿絵原画など計13件全42点を、1,2階展示室を使い入場無料で開催しました。</p> <p>いずれも映像による表現を独自の解釈で追及し、表現の多様性を提示</p>	<p>①映像を主体として取り上げた初の展覧会。</p> <p>2作家ともに自身の持つ映像感を余すところなく表現した意欲的な試みで、映像に関心のある観覧者からは高い評価を受けました。一方、映像表現に馴染みのない層への分かりやすい解説の工夫が課題となりました。</p> <p>□入場者:4,036名</p> <p>□開催時期:9/28-10/17(20日間)</p> <p>□協賛金・助成金 現金590,000円 現物・技術協賛:250,000円相当+その他技術提供</p> <p>広告協賛2件、助成金1件、現物・技術協賛7件</p> <p>□アンケート: ボランティアによる対面アンケートを実施した結果回収率・満足度ともに予想を上回りました。 回収率8.5%、満足度4.3</p> <p>□関連事業 ・オープニングレセプション(60名)</p>

<p>資料についてのコレクション・経験を有しており、展覧会をより充実させ、来場者の満足度をさらに向上させるべく連携した企画をたて、準備に着手します。</p> <p>●映像表現の理解と発展に寄与</p> <p>それぞれが異なるキーワード、特性を持って横浜を拠点に活躍しているアーティスト2組を取り上げ、映像の多様性を紹介し、作品と鑑賞者との双方向性を体験してもらうことで、映像文化への理解と発展に繋がります。</p>	<p>携を模索し、注目を高める工夫をし、広範囲への紹介・集客を図ります。</p>	<p>した意欲的な展覧会となりました。</p>	<p>・美術評論家=港千尋氏による記念レクチャー1回(16名)</p> <p>・アーティストトーク 1回(42名)</p> <p>・学芸担当によるギャラリートーク2回(15名)</p> <p>・本展出品作家のSHIMURAbros.が、「横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業」に参加</p> <p>■連携等:</p> <p>・他団体との連携</p> <p>同時期に映像展を開催する県民ホールギャラリーから展示備品の貸与協力を得、広報面でも相互協力しました。</p> <p>はまぎん産業文化振興財団および同財団を通しMM21 地区の商業施設で広報協力を得ました。</p> <p>・メイキング映像での告知</p> <p>展覧会前の2作家のメイキング映像を撮り、財団ニコニコ動画およびホームページで展覧会スタートにあわせ動画での告知を試みました。</p> <p>・他事業での告知</p> <p>2か月前に開催の「横浜市こどもの美術展」のワークショップでも映像を取り上げ、子ども達の映像に興味を持つためのきっかけづくりを行いました。</p>
---	--	-------------------------	---

イ 次代を担う子どもの創造性教育の場の提供について

[業務内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①●文化芸術の体験の	①□「横浜市こどもの美	①「横浜市こどもの美術	①「横浜市こどもの美術

<p>場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内在住・在学の 12 歳以下の児童の無審査公募展(7~8月、6日間)</li> <li>・小学生以下対象の造形教室(横浜はじめてものがたりー横浜伝統の職人芸を体験使用)</li> </ul> <p>②●教育機関等への支援</p> <p>美術教育等に関する相談等に対応</p> <p>●「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」参加に伴う市内小中学校授業のコーディネート</p>	<p>術展」の開催</p> <p>開催時期:7/28-8/2(6日間)</p> <p>出品点数:3,000点、入場予定者:10,000名</p> <p>高校生~大人までの広い世帯にわたるボランティア 80名</p> <p>ワークショップ参加者 300名</p> <p>■満足度 4.0 以上</p> <p>□ハマキッズ・アートクラブ(全8回、うち1回は「こどもの美術展」内)の実施、各回 30名参加、7回で 210名</p> <p>■満足度 4.0 以上</p> <p>②■美術教育等の相談対応:随時</p> <p>□アウトリーチ:年 2 校程度の実施</p>	<p>展 2012」</p> <p>応募作品数が 3,000 点を超え、うち昨年度から応募を始めた立体 18 点、グループ作品 51 点など多彩な展示内容となりました。毎年恒例の中学生・高校生・一般ボランティアの参加もあり、幅広い世代の交流も可能な展覧会となりました。</p> <p>また、初の映像展となる「ニューアート展 NEXT 2012」へと繋げるため、地元の教育機関である東京藝術大学大学院映像研究科へ協力を呼び掛け、スペシャルトークおよびフリーワークショップでも映像を取り上げました。</p> <p>「ハマキッズ・アートクラブ」年間テーマを「多文化共生Ⅲ」(H22,23 に続く)とし、テーマに添って講師を選出し、講師とともに内容を構築していきました。</p> <p>アーティストプログラム2、施設連携1、大学連携2、美術の社会活動を行っているメーカー技術者によるプログラム1、スタッフプログラム1の合計7回に亘って多彩なプログラムとなりました。</p> <p>募集段階では、定員に比し応募が多く倍率も高くなりましたが、歩留りが悪く、定員を割ってしまう回</p>	<p>展 2012」</p> <p>□入場者:8,274名</p> <p>□出品数:3,227名</p> <p>□開催時期:7/28~8/2(6日間)</p> <p>□協賛金・助成金の獲得額 400,000円(助成1、協賛2企業)</p> <p>□アンケート:回収率 3.5%、顧客満足度 4.10</p> <p>□ワークショップ:2種類実施。</p> <p>自由参加、10:00-17:30、参加無料、全 2,273名</p> <p>「革リボンのお絵かきバッジをつくろう」1,331名、「I.TOON アニメーションワークショップ」942名</p> <p>I.TOON:伊藤有壺(アニメーション作家、東京芸術大学大学院映像研究科教授)率いるアニメーション工房</p> <p>□布山タルト先生によるスペシャルトーク</p> <p>布山タルト(アニメーション作家、東京芸術大学大学院映像研究科准教授)7/29、参加 25名</p> <p>「ハマキッズ・アートクラブ」</p> <p>□実施回数:7回</p> <p>アーティストプログラム・2</p> <p>・9月「タンザニアの絵画ティンガティンガに挑戦！」講師=マイケル・ヘレム</p> <p>・12月「みんなとつながって宇宙に行こう！」講師</p>
---	--	--	---

		<p>もありました。</p> <p>会期前半での反省を踏まえ、参加者決定後のフォロー（講座日が近づいたら再度お知らせをする）を徹底したところ、定員割れを防ぐことができました。また、後半 3 回（11、12、1 月）は、引率者の参加も可とし、こどもだけでなく大人も楽しめる回となり盛況のうちに終了しました。</p> <p>毎回異なるプログラムのため、きめ細かい事前準備と現場の機転が必要な事業ですが、参加したこども達に対しては、自宅では体験できない、ユニークな講師に導かれ広い場所でふんだんな量の素材を使って、のびのびと“ものづくり”を楽しめる機会を提供できました。</p> <p>②美術教育等の相談は随時受付し、助言・紹介等に努めました。</p> <p>「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」に参加し、小学校 1 校、中学校 1 校で実施しました。</p>	<p>＝ロコ・サトシ</p> <p><b>施設連携プログラム・1</b></p> <p>・6 月「森の素材でモビールづくり」講師＝横浜市環境活動支援センター</p> <p><b>大学連携プログラム・2</b></p> <p>・7 月「星で遊ぼう！万華鏡とうちわをつくろう」講師＝横浜美術大生</p> <p>・10 月「いたずらハロウィンパーティー」講師＝横浜美術大生</p> <p><b>技術者プログラム・1</b></p> <p>・11 月「ハウス型ランタンでクリスマス」講師＝豆腐谷正樹</p> <p><b>スタッフプログラム・1</b></p> <p>・1 月「紙で民族衣装をつくって着よう」</p> <p>□参加者：7 回で 200 名</p> <p>□助成金・協賛金の獲得 50,000 円（1 団体より）</p> <p>□アンケート：回収率 60%、顧客満足度 4.20</p> <p>②美術教育等の相談教育機関等への支援問合せには、対面で各種情報誌や情報サイトなども駆使し、丁寧に対応しました。</p> <p>「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」</p> <p>H24 年度のテーマ“映像”での実施を希望する 2 校に対し、柔軟なプログラムをアーティストとともに構築し、各校の教育目標に合ったアウトリーチ授業を実施しました。</p>
--	--	--	--

			<p>・末吉小学校(鶴見区)＝ 布山タルト(「横浜市こども美術展」でトーク) □実施日:11/6,15,16 □参加:5年生4クラスで149名</p> <p>・小田中学校(金沢区)＝ SHIMURAbros.(「ニューアート展」出品作家) □実施日:12/5,6 □参加:3年生4クラスで120名</p>
--	--	--	--

ウ 市民やアーティストの創造活動支援の場

<p>[業務内容]</p> <p>①●初心者を中心とした絵画教室を実施し、絵画人口・ファンのすそ野を広げる</p> <p>②●市民(16歳以上)の出品作品を無審査で展示する展覧会の開催</p> <p>③●市民ボランティアとの協働</p> <p>平成14年にボランティア導入以来10年目の前23年度に、ボランティアアンケート等も参考に、自主性・積極性に重きを置く仕組みに大きく変更しました。23年度の良い点うまくいかなかった点を整理し、参加したくなるような仕掛けをボランティアと一緒に考え、更なる活動の充実を図ります。</p> <p>④●自主事業でとりあげるアーティスト支援のためのレクチャーや指導講座の実施</p>	<p>[達成指標]</p> <p>①□全19コース、参加者のべ687名(レギュラーコース9、単科コース10) ■年度末に「絵画教室卒業生展」の実施</p> <p>②□「ヨコハマ日曜画家展」 第36回展:入場者7,000名、出品点数200点 開催時期:6/19(火)～24(日)</p> <p>③■市民ボランティアとの協働 移転後の活動を想定し、開館以来の展覧会図録など資料的価値のある書籍の整理やボランティア通信など自主的な活動を深化させていきます。</p> <p>④■展覧会事業および、ハマキッズ・アートクラブにおいてアーティストを取り上げ新たな活躍の場を創出</p>	<p>[実施内容]</p> <p>①「絵画教室」 全面刷新した前23年度の利用者アンケートを元に、人気と実績のある講師はほぼそのままに、内容の充実を図りました。年度末最終会期には、受講の集大成となる「絵画教室卒業生作品展」を実施し、施設の閉館とともに長い歴史をもつ同展のフィナーレを飾りました。</p> <p>②「第36回ヨコハマ日曜画家展」 団体やグループに属さなくても本格的な展示室に自分の絵が展示できるという画期的な企画。関内で行われる最後ということもあり、前年度を上回る7,500人を超える来場者でにぎわいました。</p> <p>③事業に運営補助ボランティアが参加することで、施設と市民をつなぐ役割</p>	<p>[達成状況]</p> <p>①「絵画教室」 □バラエティーに富んだ全19コースを実施 ・レギュラーコース:全17回が9コース ・単科コース:10コース □参加者人数:全19コースで登録者729名(定員725名に対し100.5%の達成)、のべ出席者7,361名(のべ出席可能者数8,745名に対し86%の出席率) □受講料収入:12,476,000円 □卒業生作品展 3/6-3/11(6日間) 出品数266点 入場者2,604名</p> <p>②「ヨコハマ日曜画家展」 □出品数230点、入場者7,579名</p> <p>③市民ボランティアとの協働 事業を補助するボランティ</p>
---	---	---	--

		<p>を果たしました。</p> <p>運営補助ボランティアとは別に広報ボランティアを募り、自主的な「ボランティア通信」を発行しました。同紙を通して、他施設紹介や、新ギャラリーとなるいせやま周辺を歩き周辺マップを作成するなど、施設広報とは一味違う、市民が今欲しい情報を速やかに・気軽な形態で(施設にある簡易印刷機による)お知らせすることができました。</p> <p>④「ニューアート展 NEXT2012」「横浜市こどもの美術展」「ハマキッズ・アートクラブ」、および「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」において、それぞれの事業にふさわしいアーティストを取り上げ、アーティストとともに様々なプログラムを構築し、市民との触れ合いを創出し、アーティストの活動や作品を広く紹介しました。</p>	<p>アを募る一方、自主的・協働を目的とする広報ボランティアを募集し、様々な分野で活動いただきました。</p> <p>(1)運営補助ボランティア 幅広い世代に呼びかけ、様々な業務の運営に参加いただきました。</p> <p>□「ニューアート展 NEXT 2012」 制作ボランティア:金澤麻由子の作品制作、18名のべ21名 アンケートボランティア:8名のべ28名 □「横浜市こどもの美術展 2012」 準備:作品受入&amp;整理、コメントカード作りと作品へのコメントカード貼り 期間中:会場案内・受付・ワークショップ補助 参加:124名(一般42名、高校生52名、中学生30名) □「ハマキッズ・アートクラブ」 7回の講座で各回2名程度募集し、講師・職員の作業補助、講座参加者(こども&amp;保護者)への案内および取材活動に参加いただきました。 参加:24名 運営補助16名 広報(活動取材)8名</p> <p>(2)広報ボランティア 自主的・協働の活動をめざすボランティア。「ボラン</p>
--	--	--	---

			<p>ティアによるみんなの広報誌」を編集目的に『ボランティア通信』を発行しました。</p> <p><input type="checkbox"/>「ボランティア通信」 7,9,11,2月に4回発行</p> <p><input type="checkbox"/>広報会議 5/27,6/10,6/24,7/8, 7/22,8/26,9/16,10/13, 10/27,11/18,1/20 11回開催、のべ98名</p> <p><input type="checkbox"/>他施設訪問 4箇所 取材を兼ねて表敬訪問し、「ボランティア通信」で紹介するとともに、ボランティア間での情報共有・発信を行いました。</p> <p>・6/10シルク博物館 10名 ・10/13 日本郵船歴史博物館 4名 ・1/20 いせやま会館(新ギャラリー)&amp;横浜能楽堂 14名</p> <p>■新ギャラリー周辺のマップ制作 周辺の見どころ・オススメも入れて独自マップを作成しました。今後も取材を重ね、マップの充実を図っていきます。</p> <p>(3)ボランティア交流会 総括・親睦を深める目的で開催 2/23に実施、参加21名</p> <p>④アーティスト支援</p> <p>■各事業で実施、詳細: P2~6 (1)アおよびイ</p>
--	--	--	--

エ 創作活動を介した人々の関わり合いの場

[業務内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
--------	--------	--------	--------

<p>①●民間ギャラリーとの情報交換</p> <p>②●利用者団体・NPO 法人横浜美術友の会(絵画教室運営受託者)との意見交換</p> <p>③●ボランティア機能の強化</p> <p>④●学校とのネットワーク形成による日常の相談対応等</p> <p>⑤●アーティストとの触れ合いの場の提供</p>	<p>①■ギャラリーネットワークの形成:情報誌やホームページの編集を中心に情報交換を維持します。平成22年度の全面リニューアルによる「アートヨコハマ」「ギャラリーマップ」に加え、平成23年度の6月から発行している市内民間ギャラリーの月ごとの予定を紹介する「横浜市内の展覧会情報」の発行などにより、きめ細かな情報提供を心掛け、市内美術施設の活動を広報面でサポートします。</p> <p>②■協議等:随時</p> <p>③さまざまな活動を通してボランティアとの市民協働を進める。 □ボランティア交流会:年1~2回</p> <p>④■連絡調整:年2回程度</p> <p>⑤■企画展の制作段階での制作ボランティアの募集 ・展覧会期間中のアーティストトーク ・ワークショップでアーティストを講師として取り上げる</p>	<p>①情報誌やホームページの編集を通して情報交換を維持し、手刷り情報誌「横浜市内の展覧会情報」により民間画廊の展覧会情報を毎月市民に届けました。</p> <p>②絵画教室、ヨコハマ日曜画家展といった事業運営を通し、NPO 法人横浜美術友の会と適宜意見交換をし、事業運営を円滑に進めました。</p> <p>他方、年度末の移転、平成25年度以降の絵画教室等の事業の継続・運営について、同NPO と横浜市・市民ギャラリーの3者で話し合う機会も多く設け調整を図りました。</p> <p>③運営補助活動とともにボランティアの自主性を活用した事業を推進しました。</p> <p>④自主、貸館ともに近隣の学校およびその関係者とは適宜相談・調整を実施しました。</p> <p>⑤各事業の多方面で触れ合いの場を提供しました。</p>	<p>①民間ギャラリー</p> <p>■140 近くある民間ギャラリーと情報誌やホームページの編集を通して連絡調整を定期的に行う一方、9月に実施した横浜市主催の「移転説明会」の案内を送付し移転への周知を図りました。</p> <p>また、翌25年度に向け、民間ギャラリーを利用する市民の創作・発表活動を広報面で支援する情報誌の発行を決定し、より積極的なギャラリーとのネットワーク作りを目指していきます。</p> <p>②利用団体、NPO 法人横浜美術友の会</p> <p>■従来からの事業調整に加え、移転作業や事業継続について話し合い、次年度以降の協力について調整しました。</p> <p>③ボランティア機能の強化</p> <p>■各事業で実施、詳細:P6~8(1)ウ③</p> <p>④学校(教育機関)</p> <p>■自主事業では、横浜美術大学、東京藝術大学大学院映像研究科との連携が実現しました。貸館利用では小学校から大学に亘って学生・教員・関係者の利用や相談がありました。</p> <p>□新ギャラリー開設に向けて市民広聴会 日時:10/31 場所:アトリエ室 参加:東京藝術大学大学院教授2名と大学院生5名、横浜市2名、市民ギャラリー</p>
---	--	--	---

			1名 ⑤アーティストとの触れ合いの場の提供 ■各事業で実施、前述 P8 (1)ウ④
--	--	--	--

(2) 運営について

ア 創造活動の発表の場の提供について

[業務内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
<p>①教育文化センターからの退去の準備を進めながらの運営になりますが、利用者・鑑賞者の要望に対応する施設環境や利用条件を整えるために、横浜市・財団および管理者である教育文化センターと調整し、開館日数と利用時間を設定します。</p> <p>②条例に定める上限料金に準じた利用料金を徴収します</p>	<p>①□利用率 100% □開館について 開館日数 320 日 営業時間 10～18 時</p> <p>②利用料金 展示室 1 階～3 階を 6 区分に分け(最大 6 団体に貸出可能)、条例に基づいた料金設定で貸し出します 利用料収入目標: 11,000,000 円</p>	<p>①閉館・移転による施設イメージの低下、営業日の変更などのハンディがありました。100%の利用を達成できました。</p> <p>②貸館利用団体と十分な事前調整を行い、安心して開催日を迎えることができるように努め、利用料金に基づき利用料を徴収しました。</p>	<p>①□開館日数 330 日、利用時間 10～18 時</p> <p>②□利用率 100%、利用料金収入 12,352,750 円(予算に比し、112%)</p>

イ 利用促進及び利用者サービスの向上について

[業務内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
<p>①スタッフのモチベーションを下げることなく、利用者や来場者に平常心で臨み、閉館まで市民サービスの維持向上に努めます。</p> <p>②通常営業の情報提供に加え、「閉館移転に関する情報」「一時休館中の情報」「再オープンに向けての情報」等を横浜市と適宜協議・調整し、利用者・来場者に正確な情報の提供を心掛け、安</p>	<p>①■閉館まで市民が利用できる日を少しでも増やすよう努めるとともに、日常業務に心を砕き、再オープン後に繋がる管理運営を心掛けます。</p> <p>②■横浜市・財団・教育委員会管理課とも連携し、先々の正確な情報を伝え、安心・安全に利用頂けるよう配慮します。</p> <p>③■アンケート回収率アップを常に心掛け、現状改善はもとより、移転後の</p>	<p>①短期の運営では支障の無い施設点検を割愛・閉館以降にずらす、平年 1/5 からの貸館利用を 1/4 に繰り上げるといった工夫をし、3/11 閉館で営業日数が減じながらも、貸館利用日の確保・維持に努めました。</p> <p>②横浜市をはじめ関係者との連絡調整を密にし、閉館・移転および新ギャラリーの情報を紙面、ホームページはもちろん、</p>	<p>①□当初 320 日程度だった予定を 330 日まで開館することができました。</p> <p>②■横浜市主催の第2回移転説明会の開催協力、説明会資料の施設内配布、情報誌やホームページ等を通して、正確な情報を迅速に届けました。</p> <p>□移転説明会資料の配布 説明会に参加できなかった利用団体や一般来館</p>

<p>心・安全にご利用いただけるよう努めます。</p> <p>③施設利用アンケート（「利用者」「来場者」）および各事業アンケートを積極的に採り、日常運営に反映させるとともに移転後の施設運営に生かせるようにします。</p> <p>④関係団体等との情報交換・協力体制の強化</p>	<p>運営に生かせるようなアンケート分析を心掛けます。</p> <p>④財団各施設、教育機関、民間ギャラリー等の市内美術施設との情報交換を常に心掛け、利用者・来場者への情報提供としてフィードバックさせていただきます。</p>	<p>問い合わせに対しても正確で丁寧な対応を心掛けました。</p> <p>③来場者アンケートではアンケートボックスを目立つよう加工し、ボックスの傍に鉛筆を常備するなどの工夫をしました。</p> <p>「ニューアート展 NEXT 2012」において、ボランティアによる対面アンケート活動を行いました。</p> <p>④美術施設、文化施設との情報交換を心掛け、最新の情報を市民に届けられるよう、確認・整理・工夫に努めました。</p>	<p>者にも配布サービスを実施しました。</p> <p>館内配布:1,500部超</p> <p>③■来場者アンケートの回収率が低く、また、満足度も事業アンケートに比し低い状況を改善するのが課題でしたが、筆記用具を常備したり、設問内容を答えやすくするといった工夫を行った結果、例年に比べ回収率が微増し、満足度も向上しました。</p> <p>□回収率 0.07% (H23年度 0.05%)、満足度ソフト面 4.03(同 4.0)、ハード面(美観・清潔度) 3.90(同 4.0)</p> <p>④■営業最終日まで、美術・芸術文化情報を提供しました。</p>
--	--	--	---

ウ 市民ギャラリー所蔵作品の適切な所蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示

[業務内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
<p>①コレクション展</p> <p>②コレクション管理</p> <p>・収蔵作品の保全</p> <p>万全の収蔵庫ではないため、横浜市と協働して約1,300点の作品の状態調査を実施、現況を把握し、閉館後の一時保管施設へ作品を移設するまで、開館時からの所蔵品リストを調査・整理・スケジュール管理を滞りなく行います。</p> <p>一方で、日常点検、計画的な定期点検を実施</p>	<p>①コレクション展</p> <p>3月末の閉館を控え、実施を見合わせます。</p> <p>②コレクション管理</p> <p>■収蔵作品の保全</p> <p>・横浜市が指名する所蔵作品の調査会社とともに作品の状態調査を行い、移転へ向けての整備・スケジュール調整を行います。</p> <p>・原則毎日学芸員が収蔵庫内の目視点検を行います。</p> <p>・日報記載:毎日、データ</p>	<p>①コレクション展</p> <p>実施を見合わせました。</p> <p>②コレクション管理</p> <p>■収蔵作品の保全</p> <p>横浜市が委託する調査会社による状態調査は平成25年度以降の実施。</p> <p>(1)作品の安全・的確な移転</p> <p>移転準備を横浜市とともに進め、移転先=仮収蔵庫および移転作業請負業者を入札により決定し、全作品を無事仮収蔵庫(三井倉庫)へ移転しま</p>	<p>①コレクション展</p> <p>実施見合わせ</p> <p>②コレクション管理</p> <p>■収蔵作品の保全</p> <p>(1)移転すべき作品を無事仮収蔵庫へ移転しました。</p> <p>仮収蔵庫=三井倉庫(株)、作品移転=日本通運(株)横浜支店に決定し、移動:3/4~8(5日間)</p> <p>移転総作品数:1,274点</p> <p>(2)日常点検</p> <p>原則として毎日学芸員が、温湿度点検および目</p>

<p>し、維持管理に努めます。</p> <p>・広報 学芸員の解説付の「アートヨコハマ」を活用した作品の紹介および開館以来の図録の販売</p> <p>・他美術館等への所蔵作品の貸出、熟覧</p>	<p>ベースの適宜更新</p> <p>・専門業者による空調設備点検の実施:2回/年 □各号(年3回発行)で、親しみやすい紹介をおこない、所蔵作品の広報に努めます。 □年内(平成24年12月まで)は、貸出・熟覧を行います。</p>	<p>した。</p> <p>(2)収蔵庫の日常点検 出勤の学芸員が必ず目視点検を実施しました。</p> <p>(3)専門業者による空調設備点検の実施 ■収蔵作品リスト・データの調査・整理 移転準備のため横浜市と検討を重ね、移転作品リストの作成→リストと実作品の照合を行い、移転作業の正確性・効率化を図りました。</p> <p>■修復 前23年度の棚卸で状態が好ましくない牛田雞村の残り1点を修復し、修復後は横浜美術館へ蔵置しました(前年度修復した2点とともに合計3点を横浜美術館に蔵置)。</p> <p>■広報 情報誌「アートヨコハマ」で収蔵作品を紹介し、市民にコレクションを広く紹介しました。</p> <p>■貸出・熟覧 所蔵する牛田雞村の作品のうち2点をローマ国立近代美術館に貸出しました。</p> <p>■その他 収蔵作家の研究調査を横浜美術館との連携で行いました。</p>	<p>視点検を実施しました。</p> <p>(3)専門業者による点検 ・1回目=6/7 点検後に不具合が発生し、庫内加湿除湿ユニットの除湿部分の熱交換器の点検(7/4)、冷媒ガス補充・修繕(7/27)を行い、耐用年数を超えている機器の適正運転および維持管理に努めました。</p> <p>・2回目=11/14 加湿除湿ユニットの加湿マグネットスイッチの経年劣化による異音発生につき部品交換(12/22)。</p> <p>■収蔵作品リスト・データの調査・整理 (1)移転準備 ・作品データと実作品との付け合せ作業 6~7月の棚卸および3月の収蔵庫移転直前の調査から、保管作品数が1,286点あることを確認。</p> <p>・作品の仕訳作業 作品をカテゴリズし、全1,274点を仮収蔵庫へ移転しました。</p> <p>(2)未撮影作品の撮影 平成25年度からの実施予定でしたが、仮収蔵庫での撮影作業が難しいため、比較的大型の146点の撮影を11~1月の10日間で実施しました。 11/13, 12/4,18,19,24,27 1/26,28,30,31</p> <p>(3)新ギャラリーの収蔵庫</p>
---	--	--	--

		<p>の収納プランを考える      収蔵作品のメディア別・      大きさ等の諸条件から新      ギャラリーの収蔵庫にど      のように収納していくかを      建設設計担当者と検討を      重ね、実施設計計画を確      定しました。</p> <p>■修復      牛田雞村 3 点のうち未修      復だった 1 点を修復し横      浜美術館へ蔵置しまし      た。</p> <p>作品:「藁街の夕」1926 年      / 絹本着色 /63.0 ×      113.0cm      修復期間:8/22-10/24</p> <p>■広報      情報誌「アートヨコハマ」      48, 49, 50 号で収蔵作品      を紹介しました。</p> <p>■貸出・熟覧      牛田雞村 2 作品をローマ      国立近代美術館に貸出      しました。</p> <p>当該作品:牛田雞村《蟹      工二題》より      「藁街の夕」(同上)      「蛮船の泊」1926 年/絹本      着色/63.0×113.0cm      貸出期間:平成 25 年 1      月 22 日～6 月中旬</p> <p>■その他      ・収蔵作家の研究調査      所蔵作家の 1 人=平野杏      子氏の聞き取り調査を行      い、レポートを作成しまし      た。</p> <p>・調査期間:5～10 月      ・作家宅訪問:10 回(うち</p>
--	--	---

			1回は来館)
--	--	--	--------

エ アトリエ及び作品保管室の管理運営

<p>[業務内容] アトリエ及び作品保管室の活用と管理運営</p>	<p>[達成指標] ・アトリエの利用 □利用率 75% ■自主事業(ハマキッズ、絵画教室、ボランティア活動)、団体展の搬入保管・審査会場としての利用 ・作品保管室の利用 ■収蔵作品の整理・点検・貸出作業としての利用 自主事業の補助的(準備等)利用 ボランティア活動の利用 団体展の搬入保管・審査会場としての利用 いずれも、施設の使い勝手や日常的に整理整頓をし、清潔さなどの快適性にも常に心掛け利用率を高めるよう努めます</p>	<p>[実施内容] ・アトリエの利用 自主事業、ボランティア活動、利用団体への貸出利用として活用し、3月は移転荷物の仮置場として使用しました。 ・保管室の利用 基本的には所蔵作品の整理・点検・貸出作業および備品庫なのでその意味では毎日利用があります。その他、自主事業の補助的利用(準備や制作)や展示室利用団体への関連事業への貸出をしました。閉館間際は、収蔵作品移転や引越のための作業室として活用しました。</p>	<p>[達成状況] ・アトリエの利用 □4~3月利用率:80% 主な利用として、絵画教室 109日、絵画教室関連(NPO 法人横浜美術友の会の利用等)28日、貸館利用団体への貸出86日等 ■作品保管室の利用 収蔵庫前室および貸出備品庫が主たる機能ですが、自主利用以外にも、団体展の搬入保管・審査会場として貸出し、利用団体へのサポートを行いました。 12月からは、主に収蔵作品の撮影・点検、2月からは移転のための作品点検・梱包作業で使用しました。 アトリエ、保管室ともに、貸館団体への貸出後には、「利用チェック表」を使って確認し、日常的な整理整頓をし、清潔を保ちました。</p>
---------------------------------------	---	--	--

オ 事業の実施・管理運営体制

<p>[業務内容] ①ローテーション制とし、専門的な人材を配置、機能的・効率的な業務分担による組織力発揮 ②適切かつ効果的な勤務体制を確立します</p>	<p>[達成指標] ①早番(8:30-17:15)、遅番(9:30-18:15)の2交代制、展示室、撤去日の重点配置 館長1人:統括責任者 副館長1人:管理運営実</p>	<p>[実施内容] ①早番、遅番の2交代制とし、貸館利用の展示および撤去作業に重点的に配置しました。 館長1人、副館長1人、固有職員3人(経理労務</p>	<p>[達成状況] 館長以下11名のスタッフで適切に管理運営をし、2団体(教育委員会管理課とNPO 法人横浜美術友の会)とも適宜連絡調整し、遺漏ない運</p>
--	---	---	---

<p>③施設の所管である教育委員会や絵画教室の委託先であるNPO法人「横浜美術友の会」等との連携</p>	<p>務の責任者 学芸(固有)1人:企画展開催、所蔵作品の管理、活用 教育(固有)1人:美術教育の支援、相談、講座等の企画 施設管理(固有)1人:施設の維持、修繕等 貸館運営(嘱託)1人:貸館事務 庶務経理(派遣)1人:労務、防災、予算等 アルバイト職員3人:ギャラリーの管理運営の補助業務 ②館長、副館長も含めローテーション体制 ③日常の適切な維持管理のための連絡調整:随時</p>	<p>庶務担当1、学芸・教育普及2、嘱託職員2人(施設管理、貸館利用)、アルバイト4人(業務補助)の総勢11人を配置しました。 ②館長、副館長も含めローテーション体制を組み管理運営にあたりました。 ③教育委員会管理課およびNPO法人横浜美術友の会とは頻りに連絡調整を行い、市民利用に遺漏がないよう心掛けました。</p>	<p>営を実施しました。 年度途中の8月に館長の交代がありました。</p>
--	--	---	---

カ その他

[業務内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
<p>①展示室利用料収入年間目標 ②多様なファンドレイズ等 ③事務経費削減の努力</p>	<p>①展示室利用料収入: 11,000,000円 移転により20日ほど利用開館日数が減じるため、指定管理過去6年間の平均より収入も減じます ②多様なファンドレイズ □助成金&amp;協賛金の目標獲得額: ニューアート展 NEXT 1,000,000円 こども展 250,000円 ハマキッズ 50,000円 □広告料獲得目標額: アートヨコハマ 350,000円 ③経費削減 移転に向け消耗品・印刷</p>	<p>①さまざまな調整努力で開館日数を増やし、利用率100%となりました。 ②各自主事業の特徴や魅力を企画書化し早めのプレゼンテーションにより助成、協賛の獲得に努めました。 しかし、獲得営業に割ける余裕が少なく、目標額に届かなかった事業もありました。 ③自主修繕に努めるなど節減に努めました。 物品購入・委託業務では入札・競争見積を行い徹底的な支出減に努めまし</p>	<p>①□H24年度利用料収入 12,352,750円(予算比12%UP) ②□ファンドレイズ 協賛金・助成金・広告料の獲得総額=1,484,905円 ニューアート展 NEXT2012 =590,000円 横浜市こどもの美術展 =401,400円 ハマキッズ・アートクラブ=50,000円 アートヨコハマ =443,505円 その他現物・技術提供協賛</p>

	物等の節約、修繕による再利用を心掛けます 調達コスト削減：早期の委託契約・備品購入・入札の実施	た。	ニューアート展 NEXT2012 ③事務費は、閉館・移転費用(約 300 万円)を捻出し、最終で180万円余の赤字となりました。
--	--	----	---

(3) 管理について

ア 保守管理業務

[業務内容] ・教育委員会事務局との連絡調整 施設の利用環境維持のための連絡調整	[達成指標] 綿密な連絡調整、相談：随時	[実施内容] 日常的な施設管理面では例年どおり行いました。 企画展では展示室利用が通常利用と異なるため相談・調整を重ね開催にこぎつけました。 閉館・移転については、横浜市を通し連絡調整に努めました。	[達成状況] 企画展「ニューアート展 NEXT2012」では、スモークを焚く・天井までの仮設壁を建てる、といった通常とは異なる使用を、消防署の助言を頂きながら建物管理者である教育委員会と調整し、開催しました。 閉館・移転については横浜市と綿密な調整を重ね無事閉館できました。
--	-------------------------	--	---

イ 環境維持管理業務

[業務内容] ①収蔵庫 ②その他	[達成指標] ①・学芸員が、庫内設備および所蔵作品の外観について毎日目視点検を行います ・庫内設備については、年2回以上保守点検を実施し、温度湿度の計測に基づき、庫内環境を良好に保つよう配慮します ②その他 ・担当職員による毎日の目視点検 ・利用団体に事前の説明を徹底し、破損・紛失等を未然に防ぎます	[実施内容] ①学芸員が庫内設備および所蔵作品の外観について毎日目視点検を行い記録に付けました。 ②その他 ・展示室およびその他処室は、開閉館時および適宜目視点検し、環境整備に努めました。 ・閉館・移転が決定し、修復は安全第一、利用者への利便性を考え、最小限に抑えるようにしました。 ・ゴミは分別ルールに従って廃棄しました。	[達成状況] ① <input type="checkbox"/> 収蔵庫の庫内環境の日報をつけました。 <input type="checkbox"/> 年2回の保守点検 ・1回目:6/27 ・2回目:11/14 ②その他 ■毎日6回の目視点検を徹底しました。 ■1か月前利用打合せおよび利用開始日の作業前に、必ず事前説明を徹底しました。 ■経費節減を念頭に徹底的に節約しました。 <input type="checkbox"/> 修繕
------------------------	---	---	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修復や買い替えは安全確保を第一優先とし必要な措置は適宜行いますが、移転を念頭に、経費と移転作業の軽減を図れるよう計画的な作業・購入を心掛けます</li> <li>・施設から日々発生するゴミは市の分別ルールに沿って適切に分別し、教育委員会事務局の回収ルートに則って廃棄します</li> <li>・産業廃棄物は、専門業者に委託して適切に廃棄し、移転作業の軽減を図ります</li> </ul>	<p>産業廃棄は、過去の資料に遡って履歴を確認し、リスト化&amp;リストの編集作業を重ね、産廃物を決定していきました。産廃物が決定してからは日常利用に支障がないよう整理を進め、大量廃棄を4回に亘って実施しました。</p>	<p>極力自前(職員)で行いました。一方で、新ギャラリーでの継続利用を考え、既存の什器・備品を整理仕分しました。うち以下を専門業者に修繕・塗装を委託しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台形台車6台</li> <li>・自立展示パネル運搬車2台とパネル足・パネル足台座</li> </ul> <p>□産業廃棄 ゴミ分別廃棄:毎日 産業廃棄:4回</p>
--	---	---	---

ウ 保安警備業務

<p>[業務内容] 保安警備</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□日常点検:開・閉館および業務時間内に午前1回、午後3回、合計6回</p> <p>■業務日誌:毎日の日常点検を必須項目とその他事項を記載し、記録を残します</p> <p>■教育委員会との協力連携:教育委員会事務局および24時間体制の警備室と日常的に情報の交換・共有を行います</p>	<p>[実施内容]</p> <p>□展示室を中心に、開閉館および定期巡回を実施し保安に努めました。</p> <p>■業務日誌は、日々の点検および業務を記録し、出退勤の職員が必ず目を通すようにしました。</p> <p>■教育委員会および警備室とは日常的に情報の交換・共有を行いました。</p>	<p>[達成状況]</p> <p>□展示室巡回6回 開館時、定時巡回4回(11:30、13:30、15:30、17:30)、閉館時</p> <p>■業務日誌は閉館まで欠かさず記録を残しました。</p> <p>■教育委員会および警備室とは日常的に情報の交換・共有を行いました。が、公共スペースでの事故がありました(5件)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/11 利用団体の受付が寸借詐欺にあう</li> <li>・6/7 利用団体による花束投棄による展示室内女子トイレの詰り・漏水</li> <li>・6/15 利用団体のメンバー1名(認知症・うつ病を罹患)の行方不明</li> <li>・10/13 ニューアート展</li> </ul>
------------------------	--	---	--

			<p>のインストール作品の一部が盗難</p> <p>・10/14 利用団体のメンバー1名体調不良による救急搬送</p>
--	--	--	---

エ 防災等

<p>[業務内容]</p> <p>防災</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□共同防災管理: ・教育委員会主催の防災訓練参加:年1回 ・自主防災訓練:2回 ■防災マニュアル 教育委員会との共同防災マニュアルおよび独自のより詳細な防災マニュアルを作成し、絵画教室委託者(NPO 法人横浜美術友の会)、利用者(展示室利用団体、アトリエ事業受講者)にも避難経路の確認、緊急時の対応を徹底します</p>	<p>[実施内容]</p> <p>□共同防災管理:自主防災訓練2回を実施しました。 教育委員会主催の防災訓練はありませんでした。 ■防災マニュアル 組織表担当者変更につき消防署に提出しました。 絵画教室委託者や利用団体、自主事業時など、避難路の確認、緊急時の対応を徹底しました。</p>	<p>[達成状況]</p> <p>□自主防災訓練2回: 6/11、12/5 □防災マニュアル 7/6 消防署へ提出 □防火・防災管理者研修 5/17 甲種防火管理者再講習の履修 11/27 防災管理者新規取得 ■防災マニュアル 施設の実態に則した防災マニュアルを策定し、それに基づいた避難誘導訓練を実施しました。 自主事業の開始前に必ず避難経路の確認、緊急時の対応を伝えました。</p>
-------------------------	--	---	---

オ 緊急時の対応

<p>[業務内容]</p> <p>緊急時の対応</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■緊急連絡網の作成 ■あらゆるケースを想定し、市および教育委員会と日常的に対応を協議し、全スタッフ(館長からアルバイトまで)に対応の徹底を図ります</p>	<p>[実施内容]</p> <p>■緊急連絡網を作成し、関係所管に提出し、連絡網に則って緊急案件の情報共有・対応をしました。 ■市および教育委員会と日常的に情報を共有し、対応を協議してその任にあたりました。 想定外の事故については緊急連絡網により上席お</p>	<p>[達成状況]</p> <p>■緊急連絡網の作成 職員異動があったため、4/1,8/1,11/1に作成 ■事故報告書7回 5/11,6/1,6/7,6/15,6/30,10/14,10/19 いずれも迅速な対応を施し、必要な場合は横浜市および財団事務局と協議し対応しました。ま</p>
-----------------------------	--	--	--

		よび財団事務局等と相談し対応にあたり大過なく運営しました。	た速やかに報告書にまとめ、関係所管と情報共有を行いました。深い反省とともに、再発防止・その後の活動に生かすことを徹底しました。
--	--	-------------------------------	---

カ 光熱水費の削減努力

[業務内容] 光熱水費の削減努力	[達成指標] ■使用しない部屋の節電の徹底 ■利用団体に照明について事前協議を十分に行い、必要以上の作品照射については節電への理解を求めます	[実施内容] ■使用しない部屋は防災防犯上の最低限の点灯とし、消灯を心掛けました。展示室の点灯時間を開館30分前を徹底しました。 ■前23年度に引き続き、白熱球スポットライトから蛍光灯式スポットライトへの転換を促進し、天井高のある部屋の照明ボタンを下げ、その分照明を絞る(10～20%絞ることで電気使用量を少なくする)などの工夫をしました。 空調については、横浜市の基準を館内各所に掲出し利用団体・来館者の理解を求めました。	[達成状況] ■教育文化センター内の未使用エリアの配電の停止や平年より20日早い閉館(3月11日)といたことで、予算より1,964,876円減額しました。 (予算9,900,000円に対し、執行7,935,124円)
---------------------	--	---	--

キ 絵画教室準備室等の提供

[業務内容] 絵画教室準備等の提供	[達成指標] ・アトリエ室に委託者(NPO法人横浜美術友の会)の事務機能を置き運営の遺漏・支障ないように努めます ・市民ギャラリースタッフと委託者との日常的な相互コミュニケーションを心掛け、絵画教室受講者への柔軟で親しみやすい運営	[実施内容] ・アトリエ室内に委託者の事務機能を設置し、絵画教室と一体運営をし、運営の効率化を図りました ・日常的に相互コミュニケーションを心掛け、双方で協力し、講師と受講生の間を取り持ち、受講者からの意見やリスクエストに柔軟に対応し、親しみやす	[達成状況] ■NPO法人横浜美術友の会が運営に携わる「絵画教室」「卒業制作展」については事故なく、盛況のうちに終了しました。 平成25年度の絵画教室(NPOの単独主催)の募集や広報についてはノウハウの伝授や作業を
----------------------	---	---	---

	を心掛けます	い運営を心掛けました。	サポートし、ほぼ受講生が満席となりました。
--	--------	-------------	-----------------------

#### ク 施設予防保全

[業務内容] 業務全般にわたって準備・整理整頓を徹底し日常に備える	[達成指標] データ管理・備品類を整理整頓し、緊急時に落ち着いて冷静な判断で対処できるよう日常的な準備を怠りません	[実施内容] データ管理者(IT 担当者)、庶務係、貸館設備担当等を配置し、担当者を中心に、整理整頓に努めました。	[達成状況] 日々の担当者間での情報共有・伝達の徹底、防災訓練、防災グッズの整理により、緊急時の対応は速やかに処することができました。 閉館・移転作業においても、作業担当を決め、担当間での情報共有・調整を徹底し、少ない作業日程(3/12-24)で事故なく完遂しました。
--------------------------------------	--	--	--

#### (4) PDCA サイクルの確実な運用

##### ア 日報及び月報の作成・管理

[業務内容] 日報及び月報の作成と管理	[達成指標] ・日報、月報を作成・管理します ・日常業務の中で PDCA サイクルを推進することで、短いサイクルでの早い対応・改善ができるよう努めます	[実施内容] ・日報、月報を作成し、管理しました。 ・ルーティン化できる業務については、PDCA サイクルを使いマニュアル化し早い対応・改善を実施しました。	[達成状況] ■ 収蔵庫の庫内環境は、定期点検とあわせ、日常点検から庫内環境の不具合を検知し、迅速な対応を施すことができました。 ■ 貸館の撤去&展示作業は、徹底的にマニュアル化し、短時間で完遂できるよう、日々検討し改善につなげました。
------------------------	---	--	--

##### イ 業務計画書及び業務報告書の作成・管理

[業務内容] 業務計画書および業務報告書の作成と管理	[達成指標] 定められた様式に沿って作成し、管理します	[実施内容] 24年度業務計画書および24年度業務報告書を定められた様式で作成し、横浜市および財団事務局に	[達成状況] ・24年度業務計画書 横浜市へは平成24年3月、財団事務局へは平成24年12月に提出
-------------------------------	--------------------------------	--	---

		提出し、市民ギャラリーでも管理反芻しました。	・24年度業務報告書 横浜市・財団事務局ともに平成25年4月に提出しました
--	--	------------------------	--

ウー1 業務評価（モニタリングの実施）

[業務内容] モニタリングの実施による業務評価	[達成指標] 毎月のモニタリングにおいて、利用状況、施設管理状況、問い合わせ・苦情等、毎月の管理運営状況について報告します	[実施内容] 毎月のモニタリングで利用状況はじめ各種報告書類を作成し、管理運営月報とともに報告しました。	[達成状況] ■モニタリング時に、「管理運営月報」および「業務計画完了確認表」を提出しました。
----------------------------	--	---	--

ウー2 業務評価（自己評価の実施）

[業務内容] 自己評価の実施による業務評価	[達成指標] 業務実績及び利用者の満足度や意見を元に自己評価を行い、以降の業務改善につながるよう努めます	[実施内容] 日報・月報の作成やアンケート調査を行い、その分析を通して、自己評価・業務改善に繋げました。	[達成状況] ■日報では日常業務の遺漏・遅滞がないよう全員で確認しました。 月報やアンケート分析では振り返り・反省を行い業務改善に繋げました。
--------------------------	---	---	---

ウー3 業務評価（第三者による評価の実施）

[業務内容] 第三者評価の実施による業務評価	[達成指標] 外部評価委員会による第三者評価が実施される場合は、横浜市の指示に従い対応します	[実施内容]	[達成状況]
---------------------------	---	--------	--------

(5) 留意事項

ア 保険及び損害賠償の取り扱い

[業務内容] 保険及び損害賠償の取り扱い	[達成指標] 施設賠償責任保険による管理瑕疵及び施設管理対応（除く所蔵作品）、不定期臨時雇用保険（事業開催時の単発アルバイト）、横浜市ボランティア保険（市民ボランティア）を掛	[実施内容] 財団事務局を通しての施設賠償責任保険および、不定期臨時雇用保険（事業開催時ごと）、横浜市ボランティア保険を掛け備えました。	[達成状況] 保険を適用する事故や事件は起こりませんでした。
-------------------------	--	---	-----------------------------------

	け、必要時に適切な対応を実施します		
--	-------------------	--	--

イ 法令の遵守と個人情報保護

[業務内容] 法令の遵守と個人情報保護への取り組み	[達成指標] 横浜市個人情報保護条例に基づき遵守し、利用者の個人情報の取り扱いを適正に行い、事故のないよう努めます	[実施内容] 財団事務局開催のコンプライアンス研修の受講、個人情報の取り扱いに関する施設研修を実施するとともに、日常的に職員間で確認しつつ、細心の注意をもって個人情報を取扱いました。	[達成状況] 個人情報取扱に関する館長による研修:5/9 6/30 に、個人情報が記載された決裁書類が見つからないという事故が起きました(後日事務室内の普段使用していない机の抽斗から発見)。猛省の上、職員全員が相互管理できる方法・場所で管理し、個人情報は事務室内の施錠できる場所で保管するようにしました。 なお、その他の個人情報を含む書類は、年度更新時にはシュレッダーをかけるなど取り扱いに注意しました。
------------------------------	--	--	---

ウ 情報公開への積極的取り組み

[業務内容] 市民ギャラリーの広報媒体を使って情報公開に努める	[達成指標] 情報誌「アートヨコハマ」やホームページ等で公開し、積極的な情報公開に努めます	[実施内容] 情報誌「アートヨコハマ」およびホームページを通して積極的に情報公開に努めました。	[達成状況] ■情報誌「アートヨコハマ」48,49,50 の各号で事業の報告や引越し・移転に関する情報を公開しました。 ■ホームページ:毎週 1 回の更新時
------------------------------------	--	--	--

エ 市及び関係機関等との連絡調整

[業務内容] 市及び関係機関等との連絡調整	[達成指標] 毎月のモニタリングにおいて業務の報告、確認を行う	[実施内容] モニタリング他、緊急案件は、随時、横浜市および	[達成状況] ■とりわけ、閉館・移転については頻繁に横浜
--------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------

	うが、重要な案件、緊急な案件については、随時横浜市・教育委員会・財団事務局に報告・協議し、適切な処理を心掛けます	財団事務局に報告・協議し、適切な処理をしました。	市・教育委員会と協議を重ね、日々の運営に加え、利用団体・来場者・関係機関からの問い合わせに適切に対応しました。
--	--	--------------------------	---

オ その他

<p>[業務内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な許認可及び届出等</li> <li>・施設の目的外使用</li> <li>・名札の着用</li> <li>・人権の尊重</li> <li>・近隣対策</li> <li>・書類の管理</li> <li>・行政機関が策定する基準等の遵守</li> <li>・法律の制定及び改正への対応</li> </ul>	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の利便性を優先し、申請書類等の簡素化と迅速な手続きのあり方を工夫します</li> <li>・美術振興の推進に貢献する目的外使用の範囲をその都度検討します</li> <li>・施設内での名札着用を遵守します</li> <li>・あらゆる差別を排除し、人権を尊重する管理運営を行います</li> <li>・近隣の住民や企業、機関との協調に努めます</li> <li>・横浜市の文書管理規定を遵守します</li> <li>・横浜市や神奈川県が策定する基準等を遵守します</li> <li>・法律の制定及び改正については市との協議の上、迅速に対応します</li> </ul>	<p>[実施内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閉館移転を控え「利用希望カード」を提出しても閉館までに利用できない団体への対応を検討するなどきめ細かく対応しました。</li> <li>・目的外使用の範囲をその都度検討し、柔軟な対応をしました。</li> <li>・職員はじめ館内で業務にあたる受託者、利用者に名札の着用を依頼し徹底しました。</li> <li>・人権を尊重する管理運営を行いました。</li> <li>・近隣関係者との協調に努め事業への参画を促進しました。</li> <li>・横浜市の文書管理規定を遵守しました。</li> <li>・市や県が策定する基準を遵守しました。</li> <li>・前23年度に「利用要綱」を一部改正し、周知期間を経て、24年度から実施しました。</li> </ul>	<p>[達成状況]</p> <p>□利用団体への回答文の送付:8/31に1団体、9/27に69団体へ回答。</p> <p>■名札着用 職員、NPO 法人横浜美術友の会、市民ボランティア、各事業時に関わるスタッフおよび受講者に着用を義務付けました。</p> <p>■前23年度の「利用要綱」の改正により、利用90日前までの振り込みを徹底し、利用料金の確実な徴収に努めました。</p>
--	--	--	--

## (4) 収支決算額について

## 収支決算書

(単位：円)

項目	予算額	決算額	差額	備考
収入				
指定管理料収入	60,010,000	60,010,000	0	指定管理料 60,010,000 円
利用料金収入	11,000,000	12,352,750	-1,352,750	展示室貸出利用料が予想を上回った
芸術文化事業収入	12,373,000	12,824,980	-451,980	絵画教室受講料が予想を上回った
その他収入	472,000	1,489,305	-1,017,305	広告料・助成金等が予想を上回った
合計	83,855,000	86,677,035	-2,822,035	

支出				
人件費	44,694,000	59,715,513	-15,021,513	人員増による支出増
管理費	11,422,000	9,010,329	2,411,671	開館日減で光熱水費等の節減
事業費	19,635,000	18,652,523	982,477	事業全般に亘って経費節減に努めた
事務費	8,104,000	9,925,097	-1,821,097	予算にない閉館・移転費用の捻出
合計	83,855,000	97,303,462	-13,448,462	

収支計	0	-10,626,427	-10,626,427	当期収支差額
-----	---	-------------	-------------	--------

【別紙1】

自主事業実績一覧

No	実施時期	事業タイトル	会場	事業内容	主催・共催等	入場見込	入場料・受講料	入場者数
	4月～1月	平成24年度 絵画教室	アトリエ	一般者の 絵画 教室	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振興財団)	725名	レギュラーコース21,000円/年 単科コース 2,000円～ 15,000円	729名
	6月	第35回ヨコハマ日曜画家展	1,2階, 3階 A2の 各展示室	市民の 無審査 公募展	NPO法人横浜美術友の会・横浜市民ギャラリー(横浜市芸術文化振興財団)	6,000名	入場無料 (出展者出展料一般4,000円、高校生1,000円)	7,579名
		ハマキッズ・アートクラブ① 「森の素材でモビールづくり」	アトリエ	子ども向け講座	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振興財団)	4～10歳 30名	1,500円	18名
	7月	ハマキッズ・アートクラブ② 「星で遊ぼう!万華鏡とうちわをつくろう」	アトリエ	子ども向け造形講座	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振興財団)	小学生 +保護者 25組	1,000円	27名
		横浜市こどもの美術展2012	全展示室	0歳～12歳までの 無審査 公募展	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振興財団)	10,000名	入場無料	8,274名
	8月	横浜市こどもの美術展2012	全展示室					
	9月	ハマキッズ・アートクラブ③ 「タンザニアの絵画ティンガティンガに挑戦!」	アトリエ	子ども向け造形講座	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振興財団)	小学生 30名	1,500円	29名

		「ニューアート展 NEXT 2012 動く絵、描かれる時間:ファンタスマゴリア」	1,2階 展示室	展覧会 映像イン スタレー ション、 アニメー ション原 画、立 体、絵本 の挿絵 原画	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振 興財団)	3,500名	無料	4,036名
	10月	「ニューアート展 NEXT 2012」	1,2階 展示室					
		ハマキッズ・アートクラブ④ 「いたずらハロ ウィンパーティー」	アトリ エ	子ども向 け造形 講座	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振 興財団)	小学生 30名	1,000円	29名
	11月	ハマキッズ・アートクラブ⑤ 「ハウス型ラン タンでクリスマス」	アトリ エ	子ども向 け造形 講座	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振 興財団)	3～6年 生30名	1,500円	35名
	12月	ハマキッズ・アートクラブ⑥ 「みんなとつな がって宇宙に 行こう！」	アトリ エ	子ども向 け造形 講座	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振 興財団)	4～10歳 30名	1,500円	31名
	1月	ハマキッズ・アートクラブ⑦ 「紙で民族衣 装をつくって 着よう」	アトリ エ	子ども向 け造形 講座	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振 興財団)	小学生 30名	1,500円	31名
	3月	絵画教室卒業制作展	3階 A・B 展示 室	絵画教 室の成 果を発 表する 展覧会	横浜市民ギャラリー (横浜市芸術文化振 興財団)	2,000名	無料	2,604名